「ノウフク・アワード2026」表彰21団体

グランプリ

①大隅半島ノウフクコンソーシアム（鹿児島県大隅半島）
・農福にとどまらず、林業、畜産業、スマート農業、触法者の受け入れ等、多岐にわたる活動を束ねる地域協議会。マッチング支援や人材育成など、地域単位で農福連携を推進する仕組みを構築。

準グランプリ（人を耕す）

②社会福祉法人めぶき会（栃木県小山市）
・農作業だけでなく、観光・動物資源を活用した社会との関わりの創出や、地域企業と連携した農産物の加工・商品化・販売の実施を通じて、一人ひとりの特性に応じた多様な活躍の場を創出。

準グランプリ（地域を耕す）

③特定非営利活動法人みどりの杜福祉会 いわきワイナリー（福島県いわき市）
・障害者と共にぶどうを栽培し、自社醸造所でワインへと仕上げ、販売するまでを一貫して手がける6次産業型の農福連携。農福連携による品質の高いものづくりで、国内外から高い評価を得る。

準グランプリ（未来を耕す）

④夢育て（東京都世田谷区）
・障害者・高齢者・ひきこもり経験者を含め、誰でも参加できる地域コミュニティとして「夢育て農園」を開園。農作業と体操、座学、夢語りを組合せた夢育て1.0を実施し、質の高い「農福×教育」事業を展開。

優秀賞

⑤社会福祉法人みんなの輪（宮城県大衡村）
・生協「あいコープみやぎ」との「生福連携」により、生協からの食品加工等の作業受託による工賃向上や、地域の養豚業、イチゴ栽培を継承・拡大し、生協への安定出荷を実現。給食パンの残渣を豚の飼料として活用し、育てた豚を学校給食へ提供する循環で地域をつなぐ。

⑥国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター（岐阜県岐阜市）
・大学農場において障害者を8名雇用。動物・植物の管理に関わる様々な農作業に携わるほか、大学生の実習にもサポートとして携わることで、学生が実践的に農福連携を学べる機会も創出。

⑦株式会社マテリアル東海（岐阜県下呂市）
・多様な人材と共に、伝統産業「養蚕」の復興と地域唯一のイチゴ農園運営に取り組み、雇用の創出・地域活性化・SDGsの実現を追求。自社雇用だけではなく、積極的に施設外就労を受け入れ、幅広い業務の提供とマッチングを実践。

⑧社会福祉法人阪南市社会福祉協議会（大阪府阪南市）
・ボランティアを中心に、少年院の少年やひきこもりの若者、地元高校、障害者や障害児の事業所など多様な主体が協働。数十種類の野菜の栽培や寄付つき商品の販売を通じて、孤立を防ぎ、誰もが役割を持てるユニバーサル農園を展開。

優秀賞

⑨特定非営利活動法人島根県障がい者就労事業振興センター（島根県松江市）
・自営の他、施設外就労を農福連携の中心と位置づけ、就労継続支援事業所の工賃向上と利用者の能力向上及び農林水産業の担い手・産地育成を支援。独自の実習体系・専門家派遣等の支援制度により、農福連携を総合的に推進。

⑩株式会社なかせ農園（熊本県大津町）
・熊本地震からの復興を起点に、支援学校実習生の受入・採用を開始。施設外就労・自社A型施設運営、スマート農業、共同出荷・産地ブランド展開を組み合わせ、障害者就労と産地の人材不足解消を両立する農福連携モデル。

⑪特定非営利活動法人大夢（たいむ）（沖縄県うるま市）
・誰もが夢を持ち活躍できる場を目指し、農業を軸にした就労継続支援事業を開設。児童デイサービスでの農業体験・食育の実施や規格外野菜を活用した弁当屋の開設、地域農家とのスーパーへの共同出荷など地域に根差した活動を展開。

フレッシュ賞

⑫戸田建設株式会社 一の橋農場（北海道下川町）
・木質バイオマスで化石燃料使用量を慣行比8割削減する夏いちご農場を、高齢・重度の障害者の居場所・役割創出や、ひきこもり当事者の就労の第一歩として活用。農・福祉・地域をつなぎ、一の橋で暮らし働き続ける町づくりを実践。

⑬だいちゃん農園（山形県朝日町）
・ゲストハウスと農園で国内外からニートや不登校で苦しむ子供や青年・社会人、更には認知症高齢者を受け入れ、それぞれの能力に応じた作業分担で働き場所を創出。作業の見直し・効率化、労働力不足解消により、経営の安定化を実現。

⑭医療法人社団紫蘭会 光ヶ丘病院（富山県高岡市）
・病院発のユニバーサル農園「リハビリファーム」で、農をリハビリ訓練や社会参加、地域交流に活用し、患者・高齢者・障害のある方などを含む子どもから高齢者まで、世代や障害の有無を超えて役割を持ち、つながる場を創出。

⑮中電ウイング株式会社（岐阜県可児市）
・中部電力の特例子会社として、イチゴ生産を事業化。他企業とのコラボ商品開発による農産物の付加価値向上を行うほか、物流コストの課題解決のため、自動配送ロボットの実証実験にも取り組む。

⑯みなの丸（大分県佐伯市）
・障害者がカワハギ稚魚の給餌作業を担う「水福連携」を実践。作業の細分化・標準化による業務の効率化や、給餌データの蓄積・分析による育成技術の向上を実現。

チャレンジ賞

⑰株式会社浜松ホトアグリ（静岡県浜松市）
・障害者を価値創造の担い手と位置づけ、その気づきや感性を農業の付加価値向上につなげる。リッチリーフ®のブランド化を起点に、マイクロリーフやエディブルフラワー等の新事業・新商品を創出。

チャレンジ賞

⑱株式会社奥能登元気プロジェクト（石川県輪島市）
・過疎・高齢化が進む奥能登で、障害者を地域産業の担い手と位置づけ、規格外農産物等の加工・商品化を担う農福連携を実践。一次産業者の収益向上と、障害者の仕事・工賃をともに生み出す6次産業化を展開。

⑲一般社団法人SPSラボ 若年認知症サポートセンターきずなや（奈良県奈良市）
・若年認知症、ひきこもりの状態にある者、孤立する若者らが地域の一員として農に関わり、農家や企業と共に役割・仕事・収入を創出する、市民活動として取り組む農福連携。

⑳特定非営利活動法人ブエンカミーノ（広島県広島市）
・障害者だけでなく、人生選択に悩む若者をはじめ既存の福祉制度では支えきれない人々を、農業・地域コミュニティ拠点・シェアハウスで受け止める。農を軸とする「港」のような0から100歳が集う孤立予防の地域拠点。

㉑山口県立田布施総合支援学校（山口県田布施町）
・地域で不要となった農産物を活用した「作業学習」や学校設定教科「就業実践」を行い、生徒の学習意欲や資質・能力の向上を図るとともに、地域社会とのつながりを深め、共生社会の実現を追求。

